

～ 春一番の花は 何? ～

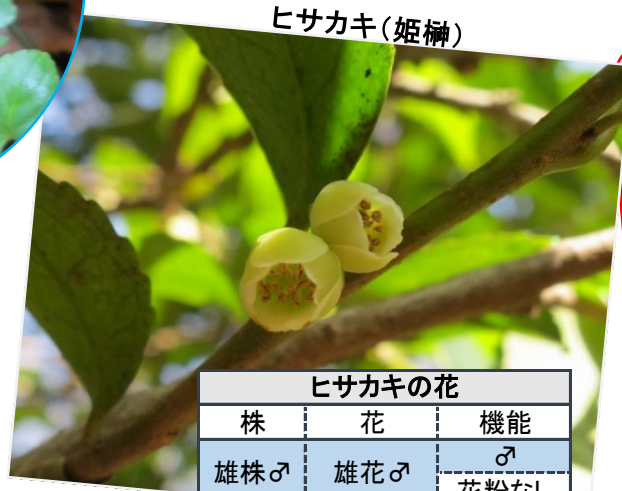
スミレ科
スミレ属



タチツボスミレ
(立坪堇)

相生山のスミレは3種類? (園芸種、mix除く)					
標準和名	漢字表記	特徴	花色	葉形	毛
タチツボスミレ	立坪堇	分布域広い	空/淡紫	ハート・先が尖る	無
ニオイタチツボスミレ	匂立坪堇	お白粉の香	紫+のど白	卵	短毛・葉・花茎
マキノスミレ	牧野堇	葉裏:紫	濃紅	深ハート ℓ≒3ω	無

花のおもしろ観察 注目点	
花	♂雄しべ
	♀雌しべ
株(個体)	♂雄花
	♀雌花
種	♂雄株
	♀雌株



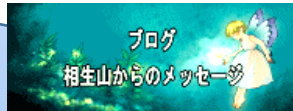
ヒサカキ(姫榊)

ヒサカキの花		
株	花	機能
雄株♂	雄花♂	花粉なし
	雄花♂	花粉なし
両性株	両性花	♂+♀
	雌花♀	♀
雌株♀	雌花♀	♀



ヒメカンアオイ(姫寒葵)

ウコギ科の例			
コシアブラ	株	両性花	
タラノキ	花序	両性花	雄花
カクレミノ	花序	両性花	
		両性花	雄花
タカノツメ	株	雄株	雌株
ヤツデ	花	両性花	雄花
		両性花は雄性先熟	



フログ
相生山からのメッセージ

あいおいやまのこと
もっともっとたくさんの人に
知ってもらうため 情報発信しています
目標: 毎日更新! ご訪問お待ちしております
コメント・拍手・ランキングupワンクリック
応援よろしくお祈りします 森の妖精アイ

神淵の山に出かけませんか? もうスグ ショウジョウバカマ・シュンランの
花芽も伸びてきます・・・間伐後の片づけ仕事 のんびりおしゃべり
たき火 ランチ 薪づくり 参加者3人そろえば いつでも出発

連絡先(古川)
tel/fax 052-821-6463
ダイヤル 080-5124-6463
e-mail: viva_forest@yahoo.co.jp
ホームページ: ラブリーアース→検索

来月は 4月12日(日)
～ 春の森は 花ざかり ～
コナラ・アケビ・バラ科・ツツジ科・・・

春は淡し 色は青
春は張る 植物の根が伸び張る
枝も芽も伸びて ふくらんで
森の色が 変わった
確かめに 行こう

雨天だった
先月のコースを もう一度
歩いてみます

ずいぶん暖かくなったので
鳥たちは恋の季節 ペアに
なって旅立ったかも・・・

一気に速まる 季節のスピード
3～5月を体感しよう!

*****樹木の名前を覚えよう*****

- 自然の森は4階建て 高木=10m以上 亜高木=10～5m
低木=5m～1m 草本=1m以下
- 常緑樹 ↔ 落葉樹(夏緑樹) ○枝・葉のつき方 対生 ↔ 互生
- ワンポイント・・・例えば 色・匂い・肌触り・味・木肌など
- 「名は体を表す」=漢字で書いてみると・・・
- 好きになると 覚えてしまうよね



ヤマザクラ 昨年3月末

森のひとり言

北岡明彦

その拾参 : 「楽しい春の森あるき」Ⅱ

春の森を歩くと、それだけでうきうきしてきますが、花や虫の名前がわかると、もっともっと楽しくなります。

スプリング・エフェメラルなどの植物の花には、蜜や花粉を求めて、多くの昆虫が訪れます。植物たちは蜜や花粉を提供するかわりに、花粉を次の花に運んでもらいます。

こうした花粉の運び屋となる昆虫などをポリネーターといいます。

その代表のひとつがチョウたちです。チョウの生活史も多彩で、モンシロチョウのように年に5~6回も発生をくり返す種類、アゲハチョウのように年2回春と夏に出現する種類、ミドリシジミやギフチョウのように年1回だけ出現する種類などがあります。

そのなかには、年1回早春だけに現れるチョウたちがいます。

里山では「春の女神」と愛称されるギフチョウやヒメギフチョウの他、コツバメ、ミヤマセセリ、ツマキチョウが4~5月にのみ見られます。

ブナ林では5月にスギタニルリシジミも姿を見せます。

こうしたチョウたちは、年1回早春の1ヶ月だけ成虫で過ごし、すぐに卵→幼虫→蛹(さなぎ)になって、9ヶ月以上蛹の状態で過ごします。

人間的な感覚でいくと、青春を謳歌する期間があまりに短くて、もったいない気がしてしまいます。テングチョウが1年の10ヶ月以上を成虫で過ごすのと比べると、可愛そうなんて思ってしまいますが、昆虫たちは、そんなこと気にしていないのでしょうか。

森で出会うチョウたちにも、不思議な不思議な秘密がいっぱいあります。2010.3



ギフチョウ

その五拾六 : 森を楽しむ(春編) その1

立春(暦の上で春が始まる日で節分の翌日)をとくに過ぎても、まだまだ厳しい寒さが続きます。もともと二十四節気は陰暦で定められたものですからそれは当然で、現在の陽暦(太陽暦)にすれば、ほぼ1ヵ月遅れの3月4日頃に当たります。しかし、寒さは厳しくとも、確実に春は近づいています。

一般的に春一番に咲く花はマンサク(先ず咲く)だといわれ、樹病を生き抜いた株が、今、花盛りを迎えています。

でも、本当の春一番の花はカンアオイの仲間です。愛知県でよく見られるカンアオイ類は、ヒメカンアオイとスズカカンアオイの2種類で、時に混生することがあります。



ヒメカンアオイ



スズカカンアオイ

ヒメカンアオイは10月末に開花する秋咲き個体群と、早春に開花する春咲き個体群がありますが、花期以外に違いはありません。葉は円形で細かい縁毛のあることが特徴で、葉裏の色には、緑色と赤紫色の2系列があります。

一方、スズカカンアオイはカントウカンアオイ(カンアオイともいう)の大花タイプで県内では主に矢作川以西に分布しています。長三角形の大きな葉と花が特徴です。一般的に両種が混生する地域では、スズカカンアオイが優占します。

カンアオイの仲間は、早春、落ち葉に埋もれるように目立たない花をつけるため、一般には春一番の花と呼ばれることはありませんが、よく見るとなかなか味のある花です。花には古くなった赤味噌の臭いがあり、ポリネーター(花粉媒介者)であるキノコバエ類を誘う働きがあるのだと思われます。

ちょっと、カンアオイの花に注目してみましょう! 2013.2

